



新年のご挨拶

広報担当副会長
玉城 信光

平成21年沖縄県医師会館の新年が始まります。12月14日の落成式の後、会館の利用も高まってきました。会長の目指す「地域に根ざした活力ある医師会」活動を広報し会員の結集を計るのが広報委員会の任務でしょう。会報を中心にした活動ではありますが、ふれあい広報委員会（対外広報）と連動して医師会の力をアピールしていきましょう。

今年は県立病院のあり方検討委員会の答申が出されます。県立病院が果たしている役割を大切にして、地域の中で発展していく為には何が必要でしょうか。自分たちで考えなければなりません。公務員医師会のみでなく県医師会の会員も知恵を貸して頂きたいと思います。たとえば私のクリニックの進むべき道を良く知っているのは私たちの職員です。自分の持っている弱点を克服し伸ばすべき点を見極め、重点的に勢力を傾けて改革を進めていくのです。私たちのスタッフは3年連続でASCO（アメリカ臨床腫瘍学会）に出席しました。その先に何を見るのでしょうか。沖縄の乳癌症例をアメリカで発表しようと計画しているのです。

常に夢をみて、その実現のために楽しい医療をしなければ疲労が蓄積しすぎて医療を支えることは出来ません。新しい年は沖縄の県立病院にとり、夢のある年になることを期待しています。自分の目で病院を見つめ、分析し改革のためのプログラムを自分たちで考えましょう。

沖縄県医師会はマスコミと県立病院のあり方について討論しました。次は県議会の文教厚生委員会と議論をします。次に公務員医師会の皆さんとも県立病院の進むべき方向はどの方向が良いのか議論をしましょう。

また沖縄県医師会は沖縄の臨床研修システムにより良い構築を目指して1月17日に沖縄県医師会医学会でシンポジウムを持ちます。沖縄に多くの初期研修生が残りたくなるような後期研修制度の充実と専門研修のより高度化を目指して、県立病院グループ、群星グループ、琉大グループの連携のための基礎作りをしていきたいと思っています。

今年もダイナミックで活力ある医師会の広報をしてきたいと思っています。



駆け出しの編集長

広報担当理事
當銘 正彦

新年、明けましておめでとうございます。

昨年（'08年）4月から公立久米島病院・院長に赴任された村田謙二先生の後任として、沖縄県医師会報の担当理事を務めております。その任務はと言えば、会報の編集長的役割です。“的”と表現せざるを得ないのは、単に編集長としての能力の問題のみならず、月1回開かれる広報委員会の10人の委員の方々の献身的なご尽力に大きく依拠するものではあり、また実質的には医師会事務局の強力なサポートのもとに会報誌は作られているのが実情だからです。取り分け、事務局で会報誌の直接の担当者として切り盛りされている津嘉山怜子女史＝「陰の編集長」の八面六臂の働きぶりは、とても妙齡の女性のなせる業かと思えるほどに感心するばかりです。この場を借りて感謝を申し述べるとともに、これからも宜しくお付き合い下さい。

さて会報誌担当理事としての行き掛かり上、当然ながら今までよりは一所懸命に会報誌を私自身が読むようになりましたが、一番に気に掛かるのは、果たしてどれだけの会員が、どの程度に読んで呉れていることかと言うことです。

かじり読み程度しかしなかった我が身を振り返っての実感ではありますが、こうして実際に編集に携わってみると、盛り沢山の面白く、そして有意義な記事や論説が満載されていることに気付きます。医師会関連の行事や報告はさておき、教育コーナー、発言席コーナー、随筆コーナー等々は毎号の如く興味深い内容であり、執筆される先生方の筆力の高さを感じるものです。またインタビューコーナーや月間（週間）行事のお知らせ等々も、人事や時節の移ろいを感じさせてくれる楽しみな企画であります。

この様に、我らが会報誌はつとにバラエティーに富んだ記事内容に努めているところですが、なお一層の充実を目指して、今年は半年ばかりの期間をかけて会報誌の読者モニターを行う企画を立てています。具体的な方法については現在検討中ではありますが、もしこの拙文を読んでおられる「貴方」にモニターの協力依頼が無い込んで来ましたら、宜しくご協力をお願い申し上げます。

会報誌は医師会の団結を図る最大の武器であります。開業医も勤務医も、沖縄県の医療を守り発展させる為に忌憚のない意見を出し合い、確認する場として、大いに本誌を利用して頂きたいと希望するものです。



謹賀新年

広報副担当理事
野原 薫

会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひいたします。

待望の沖縄県医師会館が新築落成し、いよいよ医師会活動が自前で本格的にできるようになりました。会員数も2,240名（昨年11月18日現在）で、病院長、開業医が約3分の1、勤務医が約3分の2となっております。病院長、開

業医、勤務医とそれぞれ立場は異なりますが、同じ医師としてより良い医療を県民に提供することを目指して力を合わせていきたいと希望します。私たち県医師会執行部は常に会員の皆様のためになるよう努めておりますので積極的なご参加、ご提言をお待ちいたしております。

多くの医師会員は十分に“社会的常識”が備わっていますが、更に社会の指導的立場にあることが求められていると思います。今年は激動の年となることが予測されますが、日本の医療が社会に高く評価されることを祈念いたしております。

本年が会員の皆様にとって良い年でありますよう願っております。



新年の御挨拶

広報委員（北部地区医師会）
石川 清和

明けましておめでとうございます。

昨年は、4月に北部地区医師会の副会長を引き受け、さらに県医師会誌の広報委員として原稿に追われながら、10月からは名桜大学の臨時講師を引き受けと大変な1年でした。どうか無事に乗り越えたのも、家族をはじめまわりの皆様方のご支援のおかげだと、心から感謝しております。

昨年始めた本の紹介が新コーナーとして常設されることになりました。多くの会員の投稿をお待ちしています。会員からの感動した・生き方が変わった・診療が変わった・新たに真実を知った本や、座右の本を多くの会員に紹介していきたいと思ひます。

今年は3月26日～28日にハーバード大学の公衆衛生の大学院生が今帰仁を訪れる予定です。日本の公衆衛生については英語の文献が少なく、良く理解されていないのを案じた日本人

の留学生たちが2年前からJapan Tripとして日本の公衆衛生を見聞しながら交流することを企画し、昨年までは東京・京都・大阪・広島などを訪れています。

(詳しくは<http://hsph.jp/JT2006/index.htm>)

今年は健康長寿が失われつつあると問題になっている、沖縄にも2泊3日で足を伸ばしたいとのこと。参加者は30名近くになるようで、高齢者との交流、ユイマールの見学、保健師の活動、介護保険の現場の視察などを小グループに分かれて行い、2日目の夜に、意見交換会を計画しています。アメリカの医療崩壊の状況や新型インフルエンザ対策などアメリカの医療保険情報をプレゼンしてもらおうと思っています。実りある交流ができるよう多くの先生方のご協力をお願いします。



「Yes we can!」

広報委員 (中部地区医師会)
比嘉 靖

会員の皆様、あけましておめでとうございます。

昨年は、沖縄の黄金言葉「あらたまの年に、炭と昆布飾て、心から姿若くなゆさ」を年頭の言葉としました。

さて、本年を象徴する年頭の言葉を考えると、旧年におこりました不安をかき立てるような社会情勢のなか、ふと海の向こうのアメリカ合衆国新大統領オバマ氏の演説の中で一番印象的であった「Yes we can!」「change」というフレーズが浮かんできました。

医療を取り巻く環境はいよいよ厳しくなってきました。益々深刻になってきた金融危機、医師不足(偏在?)問題、刑事事件として見られ始めた医療過誤、春に予定されている介護報酬改定など、不安材料には事欠きません。しかし、先述のオバマ新大統領の言葉は、新年を迎

えるにあたり自分や会員の皆様を発奮させるにはタイムリーなものではないでしょうか。広報委員会でも既に県医師会報にモニター制度の導入などの「change」は始まっており、本年度はさらによりよい県医師会報が発行できるよう「Yes we can」の言葉を胸に1年間がんばっていきたいと思います。



新年のご挨拶

広報委員 (浦添市医師会)
池村 剛

新年あけましておめでとうございます。今年も医師会報をご愛読いただけますよう宜しくお願い致します。

昨年は医療機関にとって厳しい診療報酬の改定がありました。収入の減少が経営に及ぼす影響は、救急医療の崩壊・公立病院の統廃合・中核病院での特定診療科の廃止などに現れてきました。開業医の収入も減少しています。社会全体の景気が後退する中で、しばらくの間は厳しく苦しい時期が続くそうです。医療福祉政策の変更と、景気の回復に期待する思いです。

さて、私事ですが昨年はメタボ対策として減量に挑み5kg減らすことに成功しました。腹囲も86cmともう少しです。今では朝夕の体重測定が日課になっています。というのも、昨年の体験から減量に最も良い方法は、朝夕の体重測定にあると考えています。朝の体重が前日より増えていると、前日夕方の食事内容が思い起こされ、余分に食べたものが瞬時に分かるようになります。そうすると、間食が抑えられカロリー摂取の制限が容易になります。運動の効果も現れやすくなってきます。自然に体重が減ります! 本当です……。

医者が実践しなければ患者さんもメタボのまま、リバウンドに注意しながらダイエットに励

みましよう。今年も良い年でありますように。
同士の皆さん頑張らましよう。



400m リレーの話

広報委員（那覇市医師会）
玉井 修

新年あけましておめでとうございます。北京オリンピックの熱狂が過ぎた今、あらためて北京オリンピックを振り返って皆さんはどの競技が心に残っていますでしょうか。私は何と言っても塚原、末続、高平、朝原が38秒15で銅メダルを獲得した男子400mリレーです。体格の面でどうしても同じ土俵で闘う事の難しい短距離走で、緻密なバトンワークと心の強さで勝ち取った銅メダルでした。3人が必死で繋いできたバトンを朝原宣治はどんな気持ちで受け取ったのでしょうか。最後の直線を疾走する朝原の表情の何と穏やかな事、想いを託されたバトンを握りしめながらゴールした彼は完全に燃焼し尽くしていました。想いを込めて、信じて託したバトンを彼ら4人は次々に繋いでいきました。想いは抱くもの、そして信じて誰かに託すもの、そんな気がします。



原点

広報委員（南部地区医師会）
照屋 勉

あけましておめでとうございます。アメリカ発の未曾有（“みぞゆう”ではありません!）の金融危機のあおりを受け、世界中のあちらこちらで“負の連鎖”が続いている若干さみしい

新年の始まりであります。「サブプライムローンの焦げ付き問題!」、「まさかのリーマンブラザース破綻!」、「相変わらず続くテロの恐怖!」、「イラク・アフガン駐留問題!」、「イラン・北朝鮮の核問題」、「地球温暖化~全世界的なCO2削減問題」、「食品偽装・食の安全神話の崩壊!」などなど……。黒人初のオバマ次期アメリカ合衆国大統領は、この難題山積の現状を打開できるのでしょうか……。?（日本の次期総理大臣に対しても、まだまだ期待は捨てておりません!）

日本の医療界におきましても、「後期高齢者医療制度の諸問題!」、「特定健診・特定保健指導の諸問題!」、「総合医制度の諸問題!」、「レセプトオンライン化の諸問題!」、「医療費削減という大問題!」、「医師・看護師不足という大問題!」、「患者たらい回し問題!」、「大学医局の崩壊!」、「離島医療の崩壊!」などなど……。職種を越えた、「病病連携」、「病診連携」、「診診連携」、「情報共有」の重要性がさらに問われる時代になるものと思われます。

小生の2009年、年頭のキーワードは、『原点』……。[一とは原点!一とは自分!（By 相田みつを氏）]……。[一]で止める、[一]に戻る……。[一]+[止]=「正」（いい“正月”で一びる!）。正しい結果が出せるように、『原点』に戻り、広報活動も含め、もう少し頑張っていきたいと思っております。本年も、ご指導、ご鞭撻、誠意あるご助言・ご忠告、叱咤激励、不平不満、誹謗中傷、異議申し立てなどなど……。ゆたしくゆたしくお願い申し上げます。





新年のご挨拶

広報委員（国療沖縄公務員医師会）
久場 睦夫



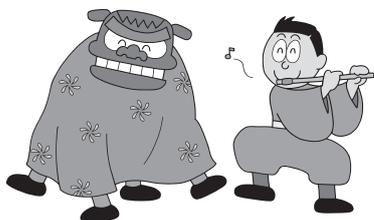
年頭のごあいさつ

広報委員（琉球大学医師会）
鈴木 幹男

新年あけましておめでとうございます。

旧年は、患者たらい回し、医師不足、医療崩壊等医療界の問題が大きく取り扱われました。その背景にあるものが何であるか、がようやく世の中に知られてきつつあるように感じます。高齢社会に突き進んでいる現在、医療費高騰・膨大化と叫ばれ、その抑制に様々な施策がなされてきておりますが、これは本末転倒である事を声を大にして訴えねばならないと思います。我が国の医療は、そもそも医師をはじめとする医療従事者のいわば犠牲的な貢献によるところが大きい事が等閑にされ続けて、現在の状態にいたっていると思います。先進各国はおしなべて高齢化社会へとシフトしてきておりますが、医療費はこれに併せて上げてきており、GDP比はアメリカの15.3%を筆頭に殆どが10%以上に上昇してきているのに対し、我が国は8%どまりで最低である。低額の医療費が如何に社会のひずみを生じるかを認識し、我が国も今こそ欧米なみの医療費が投じられ、医療界を本来の姿に持っていかねばなりません。“医療崩壊”を建て直し、安心して健康が守られるよう、高齢化社会および医療現場の実状に即応した医療費の増額を期待してやまないとこです。

医師会の先生方には、会報誌へのご協力本年もよろしくお願ひ申し上げます。



医師会会員の皆様、あけましておめでとうございます。日頃お忙しい先生方も束の間の休暇を家族・友人と楽しんでおられることと思います。今年は特に12月27日から1月4日まで9日間の大型連休となり海外で過ごされる方も多いかもしれません。

さて、私事ですが沖縄に赴任して丸3年になります。石の上にも3年と言いますが、やっと沖縄の生活に馴染み快適に過ごせるようになってきました。よく“食事が大変でしょう”と心配されますが、いたって好き嫌いがなくゴーヤやナーベラーなどを使った琉球料理も好んで食しています。一昨年は夏休みをとれなかったのですが、昨夏は家族で念願の石垣・西表へ旅行してきました。青い海に泳ぐ色とりどりの熱帯魚に魅せられ、ゆったりとした時間のなかで自然とふれあうことができました。あまり一緒に行動したからなくなってきた子供たちですが、海にまた潜りたいと言うところをみると強い印象を与えたようです。

沖縄県では以前から特色ある研修プログラムをもってため全国から研修医が集まり初期研修に関しては全国の中でも充実しています。しかし、初期研修終了後の沖縄への定着率は高くないため、診療科、特に外科系診療科では深刻な医師不足になりつつあります。私が専門とする耳鼻咽喉科も例外ではなく、新たに専攻する医師が新医師臨床研修制度が始まってから全国で30%減少しました。さらに専攻する医師も旧帝大や都市部の大学で専門医研修を受ける傾向があり、都市部と地方の格差が確実に広がっています。このような中で2008年文科省の大学病院連携型高度医療人養成推進事業に琉球大学のプログラムが採択されました。これは

複数の大学や病院が協力して医師がキャリアを積むことができるようにするもので、2009年から本格稼働します。これが追い風になり、地方でも専攻医が増加することを期待しています。

沖縄県医師会では、念願の新医師会館が開館し、1月17、18日に医学会総会がここで開催されます。2008年を振り返ると、年金問題、官庁の経費むだ遣い、石油高騰、リーマンショックによる世界不況・株安などあまりよい年ではなかったように思います。新医師会館の完成とともに暗雲を吹き払って、2009年は医療界にとって少しでも展望が開けるように、医師会会員の先生方に良い年であるようにと祈っております。



2009 年年頭挨拶

広報委員（沖縄県公務員医師会）
上田 真

あけましておめでとうございます。公務員医師会所属の広報委員として3年目になります。昨年は妊婦の受け入れ拒否・たらい回しが問題になり、沖縄ではたらい回しが無いとの報道がありました。公務員医師はその一助を担っていると自負しております。一方、県立病院の膨大な累積赤字・医師手当廃止・医療機器の老朽化や故障など現場医師の志気を削ぐ状況より退職者の増加、業務の縮小、受け入れの制限が起こりうる状況にあります。県立病院の役目である離島の応援もままならなくなるかもしれず、民

間病院との役割分担どころか逆に開業医の先生方を含め広く応援をお願いする可能性さえあります。今年は健全な県立病院運営ができるようご批判を仰ぎたいと思い年頭のご挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

広報委員（那覇市立病院医師会）
豊見山 直樹

あけましておめでとうございます。

昨年は世界的な化石燃料の高騰と、世界恐慌とよんでよい経済の破綻、日本の政権の変遷、アメリカ大統領選挙といった経済や政治を中心とした奔流の中に、人々の日常生活が直接巻き込まれていくことが肌で実感される年であったような気がします。医療もその激しい流れの中で様々な問題が噴出した慌ただしい年でした。

そんな中、世間知らずの私が、広報委員を拝命して、9ヶ月、右も左もわからぬままに諸先生方に引っ張ってもらってなんとかやってきました。会員の先生方の多方面にわたる知識に感動しつつ、年が明けました。

近年の世知辛さは、お正月さえもその装いを感じさせないがままに昨日の続きが今日というような形で年が明けてゆきます。

それでも新しい年は新しい年、昨年は会館も新築され、新たな気持ちで、会員の先生方のますますのご健康とご発展を祈念いたしまして新年の挨拶とさせていただきます。